

但東地域施設一体型小中一貫校説明会 アンケート結果

1. 調査の背景と回答者構成

本調査は、但東地域における小中一貫校（義務教育学校）説明会に対する住民の理解度、計画への期待、懸念を把握するために実施されました。

- 有効回答数：13件
- 回答者の属性（重複あり）：
 - 乳幼児・認定こども園の保護者：4名
 - 小学校保護者：4名
 - 地域住民・卒業生保護者等：6名
- 地区別内訳：合橋地区（5名）、資母地区（4名）、高橋地区（1名）、その他（3名）

2. 計画内容への理解度（Q1）

説明会の内容について、参加者全員が肯定的な回答をしています。

- 大変よく理解できた：1名
- 大体理解できた：12名

3. 義務教育学校への期待（Q2：複数回答）

教育の質的向上に対する期待が半数を超えています。

- 小・中の連携による、9年間を見据えた手厚い教育や指導：7名
- 小学校から中学校への進学（中1ギャップなど）の不安解消：5名
- 異年齢の交流を通じた、思いやりや協調性の育成：5名
- 送迎の利便性向上：2名

【「その他」の内容】

- 環境の固定化への懸念：9年間変わらない環境は、安心感がある一方で「閉鎖的で逃げ場の無い環境」になる恐れがある。
- 地域の存続：学校の統合が、最終的に地域から子供がいなくなる未来に繋がらないかという懸念。

4. 主な懸念事項（Q3：複数回答）

「通学の安全」が最大の懸念事項として浮き彫りになりました。

- 通学・通園距離の延長や、スクールバス運行などの安全確保：9名
- 部活動のあり方や、環境の変化：3名
- 年齢幅が広いことによる影響（安全、生活環境など）：2名
- 学校の規模（児童生徒数）の変化への適応：2名

【「その他」および自由記述から見える懸念の詳細】

- **通学負担：** バス通学による拘束時間の増加が低学年に与える影響。
- **いじめのリスク：** 体格や精神面で差が大きい中学生と小学生が混在することによる、いじめや摩擦の発生。
- **生活リズムの混在：** 小中学校で異なる時間割や生活リズムを同じ施設でどう調整するか。
- **人間関係の固定化：** 不登校傾向の子どもにとって、進学による「環境リセット」の機会が失われる。
- **教職員の負担：** バス運行管理等の付随業務による負担増。

5. 要望事項（Q4：複数回答）

施設運営における安全性と心のケアに要望が集中しています。

- **異なる年齢の幼児・児童・生徒が安心して過ごせる施設内の動線・安全管理：**6名
- **スクールバスの運行ルート設定や、登下校時の安全対策の徹底：**4名
- **心のケア（カウンセラー配置等）：**2名
- **開校前の交流事業：**1名

6. 自由記述に基づく重要提言（Q5）

自由記述として、以下の点が挙げられています。

- **スケジュールの厳守：** 建築の遅れによる「3 学期からの不自然な開始」を避け、4 月に万全の体制でスタートさせてほしい。
- **情報公開：** 寄せられた質問への回答を文書化し、ホームページ等で広く周知すべきである。
- **保護者意見の反映：** 統合の影響を最も受ける**低学年や未就学児の保護者**の意見を、協議の場に積極的に取り入れてほしい。
- **地域活性化との連動：** 「住みたいまち但東」をアピールし、移住促進や空き家活用と学校づくりをセットで進めるべき。

7. まとめ

アンケート結果から、義務教育学校という新しい仕組みへの理解と期待がある一方、「**スクールバス通学の安全性**」および「**異年齢混在による生活環境・人間関係への不安**」に対して対策が求められています。